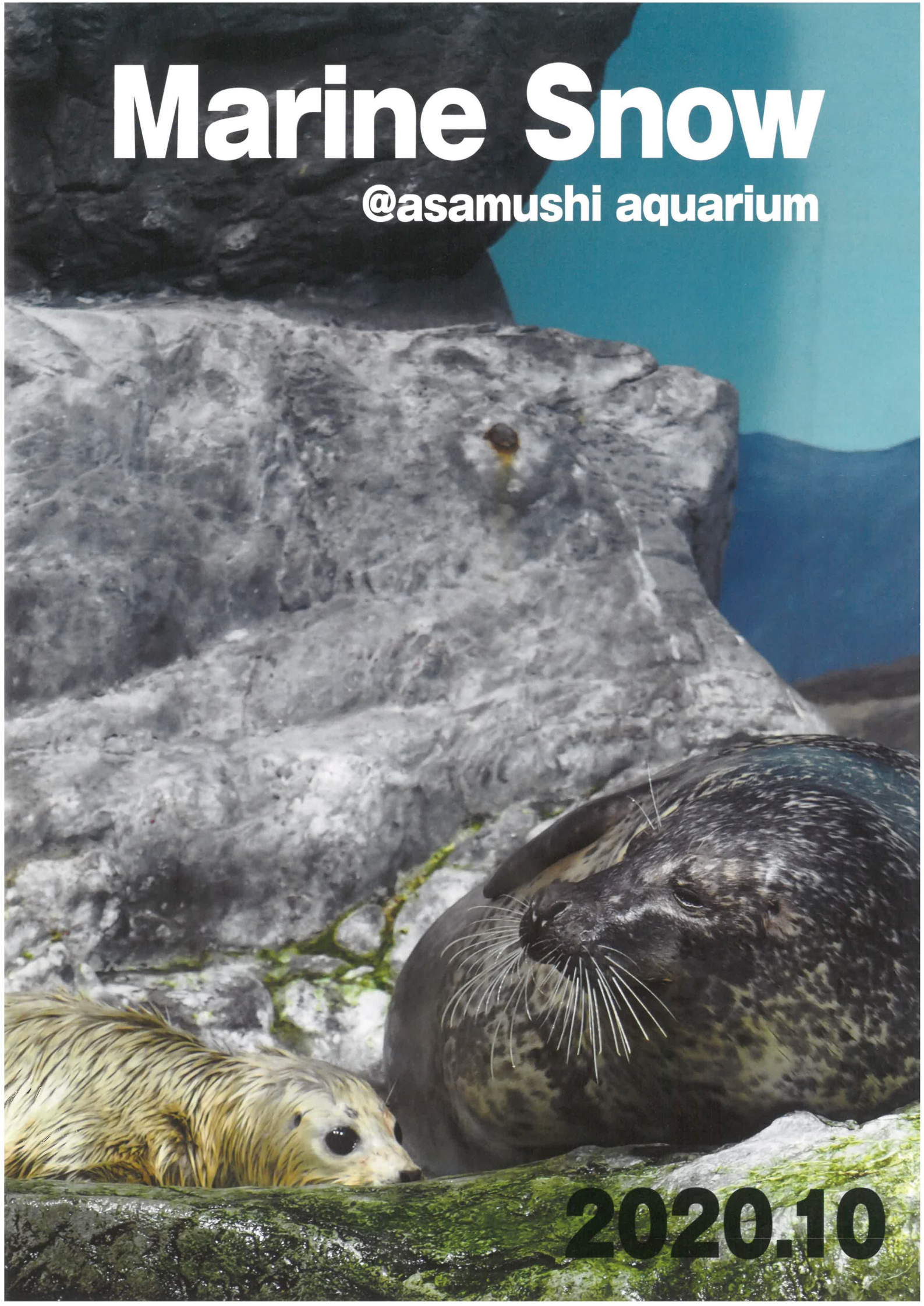


Marine Snow

@asamushi aquarium



2020.10

ゴマフアザラシ「ひかり」の誕生と成長

海獣グループ 桃井 綾子

2020年4月11日にゴマフアザラシ「ひかり」が誕生しました。母親の「メイ」にとっては2018年に生まれた「かぶと」に続き2回目の出産です。2019年4月13日に父親にあたる「きぼう」と「メイ」の交尾を確認しています。アザラシの受精卵はすぐに子宮に着床するのではなく、約3か月間子宮内を漂います(着床遅延)。これは海が暖かく、餌となる魚が多くなる春先に出産できるように進化した結果と言われています。秋ごろから「メイ」の体重は急激に増えていき、お腹の一部が膨らんできました。出産前日には「メイ」の食欲が無くなり、陸で休んでいる時間が増えました。そろそろかな…と思い観覧通路にビデオカメラを設置し、夜間のメイの様子を記録することにしました。



誕生直後の「ひかり」。母親の「メイ」は常に「ひかり」のそばから離れなかった。

翌日スタッフが出勤すると、展示プールに生まれたての赤ちゃんアザラシと隣に寄り添う「メイ」の姿がありました。ビデオで確認したところ、出産時刻は11日の午前6時30分ごろ、スタッフが到着するほんの少し前のことでした。

前回の出産では「メイ」の授乳行動が確認されなかったため、飼育員による人工哺育が行われました。今回も念のため人工哺育の準備をしつつ、スタッフ一同で親子の様子を見守っていました。今回は「メイ」は出産直後から「ひかり」に寄り添って気にかけている様子でした。そして午後2時ごろ、無事に初授乳を確認することができました。その後も1日に数回、長いときは30分以上も授乳する様子を観察することができました。「ひかり」の体重は1日に1.5~2キロ増えていき、生後3日目では10.2キロだったのが生後3週間で30キロを超えました。アザラシの授乳期間は約3週間しかなく、この短い期間に母親は脂肪分が高い母乳をたくさん与えます。そのため「ひかり」が大きくなるのは反対に「メイ」はどんどん痩せていき、出産前は約130キロもあった体重は離乳後には82キロまで減少しました。



母親から母乳をもらっている様子。通常は10~20分行うが、時には30分以上も続くことがある。

すくすくと成長していく「ひかり」は、日中は陸場で眠ったり、プールで泳いだりと様々な表情を見せてくれました。プール

で泳いでいるときは必ずといっていいほど「メイ」も一緒に泳いで「ひかり」を見守っていました。前回の出産のときにはなかった「メイ」の母親らしい行動を見ることができ、母親としても大きな一歩を踏み出したのだと感じました。



プールで泳ぐ「ひかり」。生後1日目から積極的に泳いでいた。

離乳後は「ひかり」はバックヤードへ移動し、飼育員が与えた魚を食べる練習を行いました。はじめはなかなか魚を食べてもらえず、魚を丸ごと与えてみたり飼育員が手で魚を動かしてみたりと試行錯誤を続けていました。少しずつ体重も減ってきてしまい、どうするか悩み始めたころ、他のアザラシ達が食べているぶつ切りの魚を試しにプールに入れてみたところ、すんなりと食べてくれました。最近はサンマやイカナゴ、ハタハタ、ホッケなど色々な魚種を食べられるようになってきました。ただホッケだけは苦手なのか、口に入れてもすぐに出してしまうことが多いです。小さく切ってみたり他の魚と一緒にあげたりと、今後も乗り越える課題は多そうです。

これからは「ひかり」に負担をかけないように健康管理(体温測定や採血)ができるように訓練もしていきます。幸いにもアザラシやイルカ用の大型の体重計にはスムーズに乗ってくれるので、体重は月に2回くらいの頻度で測ることができています。7月30日時点では27.6キロでした。オトナのゴマフアザラシは100キロを超えることもあるので、今後の「ひかり」の成長を楽しみに見守っていきたいと思います。

また、今回の出産・授乳期間中は新型コロナウイルスの拡大防止のために水族館を休館していました。そのため皆さんに「ひかり」の様子を直接お見せすることができませんでした。とても残念な気持ちではありましたが、



現在の「ひかり」。親個体と一緒に展示プールで飼育中。サンマやイカナゴは積極的に食べる。

休館中は観覧通路から親子の行動を観察することができたため、貴重なデータを集めることができました。今回得られた経験や知識を今後の動物たちの健康管理・繁殖に活かしていきたいと思っています。

食品サンプルを使った食育の取り組み

魚類グループ 桃井 駿介

三方を海に囲まれた青森県では季節によって多種多様な水産資源が漁獲され、それが独特な食文化を生んでいます。代表的なのは、ホタテを味噌、卵と一緒に貝殻の上で焼いた「貝焼き味噌」や、マダラを使って作る「じゃっば汁」があります。変わったものでは、アブラツノサメの頭部の肉をゆでて、酢味噌と和えた「すくめ」という郷土料理もあり、スーパーにサメの頭がずらりと並ぶこともあります。浅虫水族館では、こうした食文化を知ってもらう目的で、食品サンプルを用いた食育に力を入れています。この食品サンプルは本物の魚介類や食材から型取りしたものなので形はもちろん、大きさまで忠実に再現してあります。また、これらを小学校に持って行き、子供たちの前で青森の水産物の授業をする際にも大活躍

しています。実物は見せられなくても、リアルなレプリカを用いることで、普段私たちが食べている生き物の姿や食文化に興味を持っていただければと思っています。



展示中のホタテ料理のレプリカ



レプリカを使った授業の様子

オオカミウオ繁殖個体の死亡

魚類グループ 竹中 樹里

2017年3月17日に誕生し、日本で初めて繁殖に成功したオオカミウオ。孵化・回収した2,567個体のうち唯一生存していた個体が2020年8月9日(1,241日齢)に全長約41cmで死亡しました。情報が無い中で稚魚の飼育は簡単なものではなく、大きくなる度に喜びを感じていました。2019年10月16日(943日齢)には、1ヶ月ほど摂餌が不良だったため様子を見ていたところ、初産卵を確認しました。当時の全長は約40cm、卵数は1,042粒、卵径は平均約5.3mm(n=10)でした。産卵して初めてその個体が雌であることがわかり、見た目ではまだ小さくても2年半あまりで性成熟するという知見が得られました。

その後は問題なく飼育できていましたが、直近の2ヶ月ほど無摂餌が続き死亡しました。解剖すると過熟卵が内臓を圧迫し、一部は変質しており、卵をうまく産出できなかったことが死亡原因と考えられます。残念ながら死ではありますが、今回の飼育経験を踏まえ、今後も繁殖、育成に力を入れていきたいと思っています。



繁殖個体が生んだ卵

Twitter新企画

「私の浅虫水族館フォトandムービー見てけじゃ」の開催

業務グループ 久保 真司

お客様が今までに当館で撮影したお気に入りの生き物の写真や動画を、Twitter上で専用ハッシュタグ「#私の浅虫水族館フォトandムービー見てけじゃ」を付けて5月16日～6月14日までの間にツイートしていただきました。この企画は、Twitter上でシェアすることで、自粛期間中においても世界中の方が他者の投稿を見て生き物の可愛さを感じたり癒されたりすることが可能となり、本企画を通して、世界中を元気にするという目的のもと開催しました。結果、期間中に計218件(写真194件、動画24件)の投稿があり、どの投稿もお客様ならではの視点で生き物たちの魅力的な様子が収められていてスタッフも見ていてとても楽しく元気をもらえました。Twitterでハッシュタグ検索すれば全ての投稿がいつでも見ら

れますので、ぜひご覧ください。また、スタッフがお気に入りとしたものについては館内展示も行い、多くの方にご覧いただきました。これからも、コロナに負けずお客様に楽しんでいただけるイベントを考えていきたいと思っています。



イベント案内



館内展示の様子

「魚類の胸鰭がたどる形態進化の軌跡!？」～東北大学との共同研究紹介～

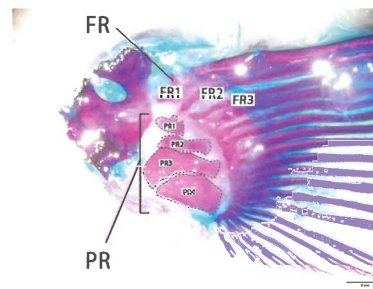
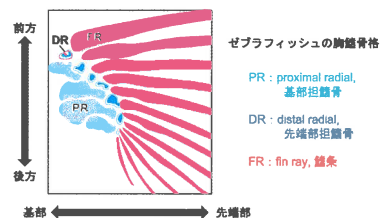
魚類グループ 三浦 弘毅

浅虫水族館では、東北大学が行っている研究に協力し、残念ながら水族館で死んでしまった魚を東北大学に提供しています。提供した魚は胸鰭を採取し、その胸鰭は薬品で加工して赤色や青色に染められます。そのあと、それぞれの魚の胸鰭がどのような骨格をしているかを観察し、魚類の胸鰭がたどった形態進化の軌跡を解明する研究をしています。ここではその中でも水族館が提供したギンブナとウグイの胸鰭を紹介します。

通常、ゼブラフィッシュなどコイの仲間は右記上のイラストのような胸鰭骨格をしており、主に基部担鰭骨(PR)、先端部担鰭

骨(DR)、鰭条(FR)の3つの部位に分かれます。しかし、今回観察したギンブナとウグイには右記下の写真のように、DRと呼ばれる骨格部位がありませんでした。このDRは運動機能に関わっていると考えられていますが、なぜ、ゼブラフィッシュと同じコイの仲間のギンブナとウグイはDRをもっていないかは現在、進化学的、形態学的に研究中です。

当館では他にも東京大学とエゾハリイカの求愛行動の研究や北海道大学の洋上風力発電における生物への影響を調べる実験などに協力しています。これからも様々な研究機関と協力をしていく予定です。



あさむしNEWS

水族館のウイルス感染対策

業務グループ 鴨澤 梨恵

当館では、ご来館されるお客様がより安心してお楽しみいただけるよう、新型コロナウイルス感染拡大防止の様々な取り組みを行っています。お客様が入館する際にはマスクの着用をお願いしており、お持ちでない方は売店で購入していただいています。また、サーモグラフィーによる検温を実施しており、体温が37.5度以上の方がいる場合は入館をお断りさせていただいています。

三密を避けるため、館内ではお客様同士の距離を保ちながらご観覧していただいております。定期的に窓や扉を開けて換気をしています。また、混雑状況によっては駐車場にて入館制限を行う場合があります。イルカプールの観覧席では、間隔を開けて座るようご案内しています。

売店等では、飛沫感染防止シートを設置し、レジへお並びの際に距離を保つ目印として、床にペンギンの足あとを貼っています。お子様が利用するベビーカーは職員が随時消毒しており、清潔な状態でご利用いただけます。今後も多くのお客様に安心してご来館いただけるよう職員一同励んで参ります。



● 飼育生物

	種類	点数
海水魚	125	3,893
淡水魚	49	2,133
無脊椎動物	67	3,974
両生類	13	111
爬虫類	2	6
イルカ	2	9
アシカ	2	4
アザラシ	2	8
ペンギン	1	14
合計	263	10,152

2020年9月30日現在

● 入館者数

2020年	一般	幼児など	入館者計
4月	554	141	695
5月	3,362	1,372	4,734
6月	10,895	4,347	15,242
7月	14,248	5,347	19,595
8月	23,385	6,909	30,294
9月	19,440	6,982	26,422
合計	71,884	25,098	96,982

● 表紙説明: ゴマフアザラシ「ひかり」

2020年4月11日にゴマフアザラシ「ひかり」が誕生しました。母親の「メイ」にとって第二仔になります。新型コロナウイルスの感染拡大防止のための休館中に誕生しました。詳しくは本文をご覧ください。

マリンスノー No.39 2020年10月発行

青森県営浅虫水族館
〒039-3501 青森市浅虫字馬場山1の25
TEL 017-752-3377 FAX 017-752-3379
<http://www.asamushi-aqua.com>